

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ Active に、Self Help で ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 学生部長 上 里 一 郎 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

入学おめでとう

諸君はこれから4(6)年間本学で勉学生活を送ることになりますが、この期間は諸君の人生にとって、これまでの4年とは比較にならないほど貴重な年月になることでしょう。

諸君は大学受験に当たっては、なぜ就職せずに大学へ進学するのか真剣に考えましたか。保護者と進学のこと話し合い納得してもらいましたか。皆が行くので、自分も進学するというような漠然とした動機による進学決定ではなかった事と思います。

それぞれが、コンピュータを学びたい、医師になりたい、教師になりたいなどの目標を持っていることでしょう。しかし、大多数の諸君は情報を収集したり、調査したり、相談した結果というよりは、取りあえずのいわば「仮の決定」というのが本当のところでしょう。とすると、大学の4年間は、自分の適性を見定め、自分が何かを問い、自分の進路を決める「真の決定」のためのかけがえのない貴重な期間になりましょう。

諸君には「大学は勉強するところである」ということを改めて問い直して大学生活を始めたいのです。この勉強と言うのは、教室での勉強だけではなく、課外活動や旅行などあらゆることを含んでいます。この際大切なことは、目標を持って徹底的にやることでしょう。あれもこれも手をだすと、たいてい人は「虻蜂とらず」になってしまいます。

大学教育の特徴は自分で考え決定しその結果は自分がおうところにあります。自己決定—自助です。例えば、時間割りですが、諸君は各学部の履修上の要望を参考に自分で時間割りを作るのです。これがまず入学して最初

の作業になります。従って完全に一人一人が独自に取り組めば時間割りはみんな異なることになります。大切な授業を組み忘れ1年遅れることになっても自分の不注意を自分で叱責するしかないのです。これは、権利が尊重されればされるほど、責任も重いということの意味しています。自由だからこそ苦しいといえるのかも知れませんが。

自助—Self Help について、97歳で先日亡くなった洋画家の中川一政さんは次のように書いています。「木はこう言う風に画けと教える。教わるものは進路が拓かれたと思っているが、実は進路が塞がれたのである。教わる者はそれ以外の見方が出来なくなる」と。中川さんは、権威や学歴に頼らず、独学で学び大成した画家でしかも、たいへん魅力的な人だったといえます。

大学では、開講される講義・演習・実験と積極的に取り組んでほしい。出席してただノートをとるという受け身の姿勢では、単位は取れても生きた知識や人間を育てることはなりにくい。自分で読み、考え、調べるActiveな学習態度が求められます。本学は多くの資源を持っています。1,650人の教官と2,000人の大学院生は諸君のよき相談相手となることでしょう。疑問をかかえて研究室をノックして下さい。快く話相手になってくださることでしよう。また、本学の図書館には250万冊の蔵書があります。これはわが国の大学では屈指の数です。しかし、諸君が活用しなければ、この文化の産物は単に膨大な紙の山になってしまいます。

4年は短くも、長くもあります。要は諸君の生き方次第です。